

坂井先生が開発に関わった、富士通から発売されているアプリ、[FUJITSU 文教ソリューション K-12 特別支援 キッズタッチ]が見事2014年のグッドデザインに選ばれたそうです!!凄いですね〜っ!!いわゆるGマークってやつですよ!!やりますね、師匠!!
さすが坂井先生。富士通と共同開発って・・・僕もシマノと共同開発したいなあ・・・(笑)

久田

第74回 『わかるように伝えていきますか』

香川大学 坂井 聡

表出性のコミュニケーションと視覚支援

コミュニケーションのもう一方の表出性のコミュニケーションを考える際にも、自閉症スペクトラムなど発達障害のある人に対して有効な支援として視覚的な情報を用いることは大切なことです。音声以外のコミュニケーション手段を使って、音声言語を補完するための方法は、AACと呼ばれています。AACはAugmentative and Alternative Communicationの略で、拡大・代替コミュニケーションのことです。そして、視覚的な情報処理の強みを生かしてAACの手段を考えることが大切なのです。重要なことは音声言語で話ができるかできないかということよりも、コミュニケーションできることを重視して考えることです。

身近なものとしては、視覚的な情報を使ったものとして、PECSなどの絵カード交換式のコミュニケーションの方法をご存知の方も多いのではないかと思います。また、携帯型情報端末等を使ったコミュニケーション手段なども開発されてきています。

アンドロイドで動くものとして、特別支援スマホアプリ感情などがあります。このアプリは、感情など目に見えないものを視覚化して伝えることができるようにしているものです。相手にうまく伝えられない経験をしてきた可能性の高い自閉症スペクトラムなど発達障害のある人に、コミュニケーションすることの便利さ、楽しさ、面白さに気づいてもらうために、そのために様々な手段を使って伝えることができるように提案することが大切なのです。そのための方法として、視覚的な情報を使った表出性のコミュニケーションについても考えることが重要なのだと思います。

これまで、自閉症スペクトラムなど発達障害のある人への視覚的支援の必要性について考えてきました。わかるように伝えるために、わかるように伝えてもらうために、視覚的支援は有効である。コミュニケーションという視点からも視覚的支援は必要だということが理解いただけたでしょうか。それはこれまで、自閉症スペクトラムなど発達障害に関わってきた人たちが、経験的に導き出した「視覚的支援が優位」という事実があるからこのような支援の必要性がわかってきたのです。現場での関わりはとても大切だということです。



**GOOD DESIGN
AWARD 2014**

坂井先生が富士通株式会社などと共に共同開発した特別支援向け学習アプリ [FUJITSU 文教ソリューション K-12 特別支援 キッズタッチ] が2014年のグッドデザイン賞を獲得しました!!
坂井先生おめでとうございます~☆



坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013年より教授に就任。

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション (やまびこの里) クラスルームコミュニケーション (こころリース出版会) 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア (エンパワメント研究所) など